

A 主語の決定 - 違う主語で同じ意味を表す文を作ることができる。

1. その本は 200 ページあります。
 - a. The book has two hundred pages.
 - b. There are two hundred pages in the book.
2. キリンは首が長い。
 - a. A giraffe has a long neck.
 - b. The neck of a giraffe is long.

B 見えない主語の発見 - 英文の主語にあたる表現が日本文では明示されないこともある。

3. 昨日の夜、熱がありました。 I had a fever last night.
4. 未来のことは決してわからない。 You can never predict the future.
漠然と一般の人を表す場合に使います。「people」と同じような意味です。

5. 去年の冬、ここは雪がたくさん降った。 We had a lot of snow here last week.
ここも「people」と同じような意味です。またこの場合は話し手も含み、ある地域の人を漠然と表しています。

6. オーストラリアでは夏にクリスマスを祝う。 In Australia, they celebrate Christmas in summer.

「they」は、話し手と話し相手は除いて「人」を一般的に示します。

C 主語の it - 時間・天候・距離などや漠然とした状況を示すときに用いられる。

7. 「今、何時ですか。」「6 時 30 分です。」 "What time is it?" "Six thirty."
8. 昨日は一日中、激しい雨が降った。 It rained heavily all day yesterday.
9. ここから駅までどのくらい距離がありますか。 How far is it from here to the station?
時や天候、距離などを表すときには、特に意味を持たない it を主語にして文を作ります。
10. やありサ。調子はどう？ Hi, Lisa. How's it going?
漠然とした状況や事情を表す文で主語として使います。

Expressions

1. 海外旅行に行く高校生が増えている。 The number of high school students who go abroad on school trip is increasing.

※英語は主語が長いことを避ける、つまりできるだけ使わないようにします。

2. お茶が好きな人もいれば、コーヒーが好きな人もいる。 Some like tea and others prefer coffee.

ここで使われている「some」は不定代名詞と言います。特定のものを具体的に指し示すのではなく、不特定の人、もの、数量などを指します。またこの文章は、「Some + V + O and others + V + O.」の構文も重要です。

単語「prefer」「より～を好む」prefer A to B「B より A を好む」